

2012年度 特別支援教育研究委員会 総括

I 本年度の目標

昨年度作成した「担任の気づき・発見シート」の活用及び改善を行う。また、小中学校在籍時に特別な取組や専門医による診断等もなされていない「気になる生徒」に対して、個別の支援をスタートさせるための方途を研究する。

II 本年度の活動

○打合せ会 5月18日(金) 奈良県解放センター

- ・座長・副座長(代行・記録)の選出
座長 市川(郡山高等学校) 代行 木下(青翔高等学校) 記録 竹川(奈良女子高等学校)
- ・今後の活動方針の確認

○第1回 5月25日(金) 橿原市中央公民館

- ・DVD「気になる子どものサポートシステム」を視聴研修
個別の支援計画に記述すべき3つのポイント(①状況 ②背景 ③支援方法)や校内支援における3つの視点(①生徒指導の見直し ②指導における工夫 ③生徒の障害を理解)について研修を行った。
- ・2011年度作成した「担任の気づき・発見シート」に関する意見交換
辻本先生(二階堂養護学校)を中心として意見交換を行った。「担任の気づき・発見シート」は、1年生の1学期に活用することを前提に作成されたこと、専門家へ相談するためのきっかけとなる資料であることを確認した。また、各校での活用状況等について活発な意見交換を行った。各校が様々な事情の中で試行錯誤しながら、現状を改善すべく取り組んでいることがわかった。「担任の気づき・発見シート」を活用し、教師にとっては「主観より客観」、生徒にとっては「他者理解より自己理解(肯定感)」が大切であることを学んだ。
- ・DVD「就労支援～社会的自立を目指して～」を視聴研修
軽度発達障害がある人への就労支援について研修した。特定法人の地道な取組、法的な支援が全く受けられない現状等について学んだ。

○第2回 6月22日(金) 奈良県解放センター

- ・DVDクローズアップ現代「軽度発達障害のより良き理解のために」「発達障害をもつ生徒への支援(高等学校)」視聴 研究協議
技能連携制度(専修学校と通信制・単位制高校とが連携し高等学校卒業資格を取得させる制度)や大阪府内の公立高校での取組、県外の私立高校での取組について研修した。
- ・「センター的機能を有する特別支援学校と高校との連携の在り方について～生徒の支援構築に向けて～」の意見交換
辻本先生(二階堂養護学校 特別支援教育コーディネーター指導員)と谷川先生(同校教育支援部長)との意見交換を行った。その中で、次の様な重要なポイントについて研修することができた。
 - ① 診断(書)がある・なしではなく、困っている生徒への具体的な支援方法を考えていくこと。
 - ② 当該担任をサポートしていく校内体制の整備。
 - ③ 当事者と同じ視点に立って相談する。
 - ④ レッテル貼りをしない。
 - ⑤ その場に適応させるのではなく、その子のニーズに合わせる。
 - ⑥ 軽度発達障害は見落とされやすい。
 - ⑦ 共に大切にしたいこと(コミュニケーション能力を高めさせる・自己肯定感を高めさせる・校内委員会の活用とケース会議の実施・一人ひとりの居場所作りと社会参加と自立)。
 - ⑧ インシデント・プロセス討議法(事例として実際起きた問題(インシデント)を提示し、グループのメンバーが背後にある事実を収集しながら、問題の解決方法を考える事例研究法)。

○第 3 回 9月28日(金) 奈良県立二階堂養護学校

・体験(入り込み) 授業参加

高等部の各クラスに入り込み、活動に参加した。また、昼休みには、十津川古道整備ボランティア清掃に参加した生徒会長のプレゼンテーションを見学した。

・体験授業に関する研究協議

学年の枠を取り払った、活動に応じてグループ分けされたクラスへ複数名が参加した。この体験授業についての意見や感想を研究協議で話し合った。生徒の希望に基づくグループ分けへの工夫や授業中の教員の適切な声かけなど、学ぶべき点が数多くあった。また、卒業後の進路(特例子会社への就労、福祉就労後の本格就労)に関しては、就労に対して具体的な意欲を持たせていく指導の必要性、離職を防ぐため家族の支援が必須であることを学ぶことができた。

・事例研修 「アスペルガー症候群の生徒と向き合って」竹川宏孝(奈良女子高等学校)

第40回研究大会で発表された、「アスペルガー症候群の生徒との3年間」について再度報告していただき、活発な意見交換を行った。その中で、卒業後の継続した関わりの大切さを学んだ。

○第 4 回 10月26日(金) 橿原市中央公民館

・「担任の気づき・発見シート」の検証及び各校の取組の考察

各学校での「担任の気づき・発見シート」の活用状況や、学校独自のシートの活用方法などについて意見交換を行った。さらに、改善点やより良き活用方法を見出すために議論を重ねた。

・事例研修 研究協議

高等学校における4つの事例を基に河合淳伍先生(奈良教育大学)から助言をいただきながら研究協議を行った。発達障害がある生徒への支援方法は様々であり、個々に応じた具体的な支援策(手立て)を見出す必要があることを確認した。また、次のような実践上大切にすべき点を示していただいた。

- ① 関係者間での共通理解の重要性。
- ② 保護者の認識の程度の違い。
- ③ 一人ひとり異なる存在であるということ。
- ④ 専門機関と相談しながら二次障害を予防する。
- ⑤ 生徒の実態を正確に把握する(手立てが見えてくる)。
- ⑥ 大人(保護者・教員)がこだわりや偏見を無くす。
- ⑦ 今までの取組を参考にして複数の目で必ずチェックする。
- ⑧ 生徒の変化を必ず記録しておく。
- ⑨ 学年(横)のつながり・情報交換をしっかりとる。
- ⑩ 周りの生徒を上手く利用しサポートする(理解者を増やす)。

研修を終えて、これまでの取組が多分に「対処」の色彩が強く、「手立て」とは異なるのではないかとということを実感した。

○第 5 回 1月11日(金) 橿原市中央公民館

・研究委員会の活動等について、まとめと総括を行った。

III 成果と課題

【成果】

- ・研究委員会を通して、有意義な研修を行うことができた。
- ・特別支援学校の教員との意見交換による意識改革ができた。
- ・専門家による事例研修の重要性を確認することができた。
- ・奈良県立二階堂養護学校では各クラスに入り込み、生徒とともに研修することができた。

【課題】

- ・各校の特別支援教育コーディネーターとの意見交換会を設け、各校の現状・課題等の把握に努め、何ができているかを見極める。
- ・「担任の気づき・発見シート」の改良と、多くの学校で利用いただけるよう、活用事例・活用方法等、方途の開発を進める。